

令和3年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

基本方針	「創造性豊かな世界市民」の資質を育む
学校運営	困難に負けない強さと社会の変化に柔軟に対応するしなやかさを持ち、自他共の幸福のために貢献する「価値創造の世界市民」の育成をめざす。 「校訓」を諸活動の根幹に置き、「主体的・対話的で深い学び」を軸に、地球的課題の探究をすすめる。

2. 教育活動における重点項目

〔Ⅰ〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために

1. SDGsを意識づけ、変革のための行動を促進
2. 「探究」の取り組みを全教科に展開
3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)
4. ユネスコ・スクールとしての活動を活発化

〔Ⅱ〕「可能性」の育成のために

1. 「学ぶ喜び」が実感できる授業の創造
2. 自学自習の習慣の確立
3. キャリア教育の推進
4. 豊かな読書環境の醸成

〔Ⅲ〕「心」の育成のために

1. 「校訓」を学び実践する機会を広げる
2. 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進
3. いじめ・暴力を未然に防止
4. 「創立者とともに」の読了を推進

【自己アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和3年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の進度はもう少し早くてもよい。 ・オンライン授業の課題は、教員間でタイミングを調整してもらいたい。 ・GRITの課題探究は真剣に取り組めば取り組む程、得ることも多いと感じている。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGHからの探究の授業の深まりを感じる。 ・オンライン授業の質の向上を感じている。 ・保護者懇談の機会をさらに増やしてもらいたい。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の進め方、課題の出し方に工夫を凝らした。 ・ユニバーサルデザインを意識し、投影する資料や話すスピードなど、生徒の意見を聞きながらより良い授業を模索している。 ・オンライン授業のスピードはもう少し早くしてほしいという要望が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高の一貫教育の利点を活かすために、キャリアパスポートを活用したキャリア教育に期待したい。 ・オンライン授業に参加する子どもの様子を見て、先生方が工夫をして授業をされている様子がわかり、本当に感謝している。 ・2年生で取り組んでいる、課題探究に泣くような思いで家庭で取り組んでいる姿を見て、教室での通常の授業ではなかなか学ぶことができない事柄に挑戦している様子がわかり、大変に感動した。 ・オンライン授業で、先生方が何とか生徒を元気づけたいという思いで授業されていることは伝わったが、登校を希望している生徒もいるので「分散」という形でも生徒が学校に通える機会を与えてもらいたい。
<p>【分析】</p> <p>昨年度に引き続き、コロナ禍の影響を受けた一年であった。その上で、オンライン授業の質を上げることに一定の成果を上げることができ、保護者の評価もいただくことができた。生徒は、オンライン授業に慣れ、授業の速度や課題の量に不足を感じていることがうかがえるので、今後もさらなる授業スキルの向上と内容の充実に取り組んでいきたい。</p> <p>昨年は、未知のウイルスへの対応を余儀なくされたが、リアルで行う教育活動の価値について検討しつつ、感染対策を十分に行う前提で、コロナ以前に戻すべきものを精選していきたい。</p>	

【学校教育目標の主な総括】

	今年度の重点目標	取り組みの内容	評価	改善点
英語力の強化 (CEFR・B1レベル)	英語を使う機会を増やす。	従来から取り組んできた高校1年生参加のイングリッシュキャンプに加え、本年度より、大阪府主催のグローバル体験プログラムに参加。英語を使える機会が高校1年生以外も持てるようにした。	イングリッシュキャンプ、グローバル体験プログラムに参加した生徒は一律に、英語を使ってコミュニケーションを行う楽しさと、自分の話したいことが伝えきれないもどかしさや悔しさを感じたという感想をもった。生徒にとって、非常に刺激に満ちた取り組みとなっていることがうかがえる。 CEFR・B1レベル以上の生徒は115名であり、全生徒の37%であった。	以前からのイングリッシュキャンプに参加して刺激された英語学習へのモチベーションを、継続して刺激できていないという問題点に対して、グローバル体験プログラムの実施は一つの解決策となった。今後は、さらに英語を使う機会を増やすプログラムの開発や発見に取り組んでいきたい。
ユネスコスクールとしての活動を活性化	環境教育の取り組みを進める	昨年度取り組んだ「MySDGs」(生徒・教職員一人ひとりがSDGs達成を促す実行可能な目標を考える活動)をさらに深化させるために、外部より専門家をお招きしセミナーを開催した。 地元との連携を深めるために、枚方市役所環境政策室主催の「地球温暖化についてのワークショップ」に代表生徒2名が参加し、高校生・大学生とディスカッションを行った。 令和3年度高校生・私の研究発表会(神戸大学サイエンス主催)に理科環境部が参加し、日ごろ取り組んできた研究の成果を発表した。	専門家をお招きしたセミナーに対して、生徒からは「SDGs達成に向けて具体的な行動に取り組みたい」などの意欲的な感想が寄せられた。 左記の高校生・私の研究発表会での発表には「兵庫県生物学会奨励賞」をいただいた。	今年度は左記の活動以外にも、他校や地元組織との交流を企画していたが、感染症のため実現が難しかった。今後は、本校の特色であるアースカムや蛍の保存活動などを通じた交流を進めていきたい。
学ぶ喜びが実感できる授業の創造	研究授業・授業公開を通じた授業力の向上を図る。	今年度は授業力向上に向けて今まで取り組んできた「オープンクラスウィーク」(教員相互で授業を参観し合う週間)に加えて、研究授業を実施した。これは、感染症対応のためのオンライン授業下でも、授業の質を落とさないための工夫を行っていた数学科教員の工夫を全教員と共有するために行った。 具体的には、Googleジャムボードを活用して生徒に問題を解かせて、提出させ、添削するというもので、すべてがオンライン上で完結するために、紙資源の節約やプリントの散逸を防げるという副産物も生まれる、画期的な取り組みであった。	教室での密を避けるためにリアルでの授業参観は行わず、オンラインで行っている授業の様子を録画したものを事前に共有、視聴したうえで研修に参加するという形をとった。この研修の形は、事前に都合がよい時間で授業の様子を視聴できるため、参加する教員は研修の時間だけを調整すればよく、多くの教員に好評であった。 また、様々な工夫を凝らしてオンライン授業を実施する教員の姿を保護者の多くが好意的に感じてくださり、学校関係者評価委員会でも授業について高い評価を頂戴した。	感染症対応下での授業向上のための取り組みは、従来の授業環境とは異なった特別な状況下での取り組みとなるため、汎用性が乏しくなりがちである。しかし、中には継続して行ったり、従来の形と選択して用いたりする余地を残すことでユニバーサルデザイン的な観点にかなった取り組みもあり、今後検証したうえで、良い取り組みは残していきたい。
自学自習の習慣の確立	スタディサプリの活用をすすめる。	スタディサプリの研修を、教員の習熟度別に行った。 リクルートから研修の担当者を招き行ったが、単に、スタディサプリの機能紹介にとどまらず、活用例を互いに紹介しあい共有する活動に取り組んだ。	活用例を互いに紹介しあう活動に取り組んだことで、スタディサプリの機能を活用した授業実践例を共有するだけでなく、スタディサプリをいかに授業に取り入れ、生徒の自学自習の習慣を確立していくかという文化(職員室の雰囲気)の醸成につながった。	リクルートから講師を招いたセミナーの開催は継続的に行うこととして、今後は教科単位や学年会で活用例を紹介するなどして重層的に情報に触れる機会を増やし、生徒の自学自習の習慣を確立できるように取り組んでいきたい。
多様な「児童権利教育」を思いやりの心を育	居心地の良い、成長し合う環境づくりを工夫する。	男女混合アイウエオ順の出席番号(名表)への変更や女子制服のストラップ導入などの多様性を尊重するための取り組みを実施した。 生徒と教員が、現在の学校の改善点と今後の学校の在り方について話し合う機会を継続的にもった。 また、支援が必要な生徒に対して、学年・養護教諭・SC・管理職が情報を共有し、今後の方針を定めるための打ち合わせの回数を増やした。	女子制服の見直しなど、目に見える形での変更に対して、生徒・保護者の評価が高かった。 支援が必要な生徒の情報を、チームとして共有することで、担当が一人で抱えることが少なくなり、負担感が軽減した。	今後も、多様性を尊重するための様々な改善に取り組んでいきたい。 来年度には、支援が必要な生徒に対しての打ち合わせ(仮称「高校支援委員会」)を定例化し、さらに細やかに対応ができるようにしていきたい。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	評価平均値		達成度評価	評価の分析・実践と今後の展望
				上段:保護者、下段:教員	上段:保護者、下段:教員		
教育活動における重点項目	〔1〕「平和の創造に挑戦するグローバルリーダー」の育成のために	1. SDGsを意識づけ、変革のための行動を促進	今年度2年生は、GRITの課題探究において自分たちのリサーチクエストへの解決策を作成するにあたって、初めてのフィールドワークを実施。実際に企業等に協力を得て、検証活動に取り組んだ。	3.1	A	課題探究に真摯に取り組んでいるわが子の様子に接して、保護者の評価が高かった。一方、教員は生徒の取り組み姿勢や成果物に手ごたえを感じつつも、フィールドワークの日程の設定など、さらに工夫を凝らすことができる点を感じての評価となった。今後は、探究の進め方や発表の方法にさらに工夫を凝らしていきたい。	
				2.7	B		
		2. 「探究」の取り組みを全教科に展開	アカデミックライティングで探究活動のアウトプットを意識した、論文作成の方法を指導。	2.9	B	一年次に「アカデミックライティング」を導入し、2年目となった。2年生では、「文章表現」として、基本的な論文の型を押さえつつ、さらに豊かな表現方法が身につくように修辭についての学習に取り組んだ。授業において、発表の内容のわかりやすさなど成果が表れている。	
				2.4	B		
		3. 英語力の強化 (CEFR・B1レベル以上)	TOEIC講座の充実/検定試験受検補助 多読教材の整備・拡充と活用 英語暗唱弁論大会・英単語コンテストの実施 各種語学コンテストへの出場 zoomを活用した海外講師との交流	2.8	B	英検受験者が減少傾向にあるのは、SGH校の期間が終わり補助がなくなったことで、受験費用がかかるようになったことが原因ではないかと分析している。今後、何らかの支援が可能かを検討する必要がある。	
				2.5	B		
		4. ユネスコ・スクールとしての活動を活発化	ユネスコスクールとしての活動を利用した、推薦入試への挑戦	2.8	B	感染症のために、他校との交流が難しかった。今後は、アースカム、蛍の保存活動など本校の特色を介して交流を進めていきたい。ユネスコスクールとしての活動が、大阪公立大学のユネスコスクール特別入試への合格など、生徒の進路獲得にもつながった。	
				2.4	B		
		〔2〕「可能性」の育成のために	1. 「学ぶ喜び」が実感できる授業の創造	Googleクラスルームをつかった、オンライン授業を行うための情報を教員間で共有。	2.8	B	本年度は、授業技術の向上のための研修として、授業の公開とZoomのブレイクアウト機能を活用した討議を行った。オンライン授業の質の向上のために、さらに研究を進めていきたい。オンライン授業のために、ここ数年積み上げてきたアクティブラーニングの実践と研究の継続が難しくなってしまったのが残念である。
					2.6	B	
			2. 自学自習の習慣の確立	教員の研修を行い、スタディサリを活用した自学自習の環境を整える。	2.8	B	スタディサリの活用研修を2回実施することが出来た。今後、多くの教員がさらに活用できるように、年1回の研修を続けていきたい。自学自習の習慣を確立していくことは、この感染症対応下において非常に重要になっている。自分自身のキャリアをデザインする意味でも、生徒一人ひとりが、タイムマネジメントを行い、どのように自学自習を進めていけばよいかというスキルが身につけられるように継続して働きかけていく必要がある。
					2.4	B	
3. キャリア教育の推進	キャリアガイダンスの実施(1・2年次) 適正診断の実施(1年次) オンラインによる創大説明会の実施(1, 3年次) 弁護士による人権講座を実施(2年) 医歯薬学部進学志望者のための懇談会 大学別進路懇談会(1, 2年対象) スタディサリを使った、「キャリアパスポート」作成のためのデータ収集。		2.7	B	卒業生に本校に再来校してもらい例年実施している「キャリアガイダンス」は、今年も感染症対応のため、動画視聴とzoomによるリモート講義の形での実施となった。同様に、医歯薬学部進学希望者のための懇談会もオンラインで実施することができた。将来のキャリアにつながる行事の終了後は、スタディサリのアンケート機能を利用したアンケートを採り、キャリアパスポートのデータ収集に役立っている。キャリアパスポートの取り組みは、まだ、スタートしたばかりで教員の理解も進んでいない。		
			2.2	B			
4. 豊かな読書環境の醸成	朝読書の時間を確保する。教員による「Book-Navi-Day」の実施。図書館主催の読書啓蒙行事の実施。		2.8	B	「図書館に行こうDAY」(図書館で朗読や演奏など、イベントを行い図書館利用者を増やす取り組み)や「名作駅伝」(チームを作り、協力して名作に挑戦したページ数を競う)など、図書館の様々な取り組みにより、読書に取り組もうという雰囲気も育っている。ビブリオバトルや読書感想文コンクールで入賞するなど、読書に関わる成果が出ている。		
			2.6	B			
〔3〕「心」の育成のために	1. 「校訓」を学び実践する機会を広げる		新入生のGRITで校訓を深めるプログラムを実施。アーカイブを活用	2.9	B	1年生のGRITで校訓を深めるための取り組みを実践している。学年が進むごとに、内容が深まっていくようにカリキュラム化する必要がある。	
				2.7	B		
	2. 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進		探究学習の中で多様性を学ぶ機会を作る。頭髮や服装のルールについて、生徒と教員が意見を交換する。	3.1	A	今年度から、「男女混合名表」「女子生徒の制服見直し(スラックスも選択可)」など、多様性を尊重するための取り組みの第一歩が踏み出した。探究学習の中で取り組みは、一般論としてのレベルにとどまり、身近な問題として深めていくにはこれから時間をかける必要がある。	
				2.7	B		
	3. いじめ・暴力を未然に防止	いじめ防止アンケートの実施 担任による懇談の実施 支援のための打ち合わせの開催	2.9	B	いじめ防止アンケートを年2回実施。(実施するタイミングについては、今後検討を進める必要がある)学期ごとに、生徒との懇談を進めた。今年度は、保護者との懇談を必須として3学期に行った。教員・保護者共に自己評価が高いのそのためと思われる。今後も、生徒・保護者との懇談は継続して行っていきたい。生徒支援のための会議を実施した。来年度は定例化できるようにしていきたい。		
			2.9	B			
	2. 「創立者とともに」の読書を推進	GRITでの創立精神学習 三大行事での創立精神の深化 担任による発表	3.0	A	GRITで読み合わせ等を行っても、それからの発展がない場合がある。さらに語り合ったり、体験を共有したり、内容を深化させていく取り組みが必要である。高校3年生では、卒業前に、担任が自分自身と創立者との原点を語る機会を設け、生徒に大変好評であった。		
			2.5	B			

※評定平均値は、保護者・全教員が4段階で評価した平均値。
 ※達成度評価については、評価平均値の3.0以上をA、2.9~2.0をB、1.9以下をCとした。